

## 復興支援第1回ふたばサイクルトレイン

### リボンツアー(復興応援スタディ)コースのご紹介

(Dコース)

#### リボンツアーとは

複合災害に見舞われた、これまでに類を見ない災禍からの地域再生(=reborn)とリボン(="結びつき"、"つながり")を得て

課題先進地の双葉郡とつながり(結びつき)、学びを得て、新たな関係を築くために体験型ツアーとワークショップを組み合わせ実施しています。

これまではバスツアーが中心でしたが、今回のサイクルトレインでは自転車で巡りながら、この中の体験、現地を見て・話を聞いて・感じて頂くと共に、風光明媚なふたば地域を楽しんで頂くことを目的としています。(ワークショップはありません)

### 復興への想いを乗せて

## 上野駅発 福島(楡葉町・広野町)行き サイクルトレイン GO!

あなたの自転車をそのまま列車に乗せて福島・ふたば地域へ!

- 走る距離は20km程度、途中見学や話を聞きながら自転車でコースを巡ります。
- サポートカーが皆さんの荷物を運びます。荷物を持たずに走れます。
- 当コースにはレンタル自転車・レンタルヘルメットもあります。(無料)
- 初日終了後、太平洋を眺めながらの温泉が楽しめます。

(A)、(B)、(C)コースはサイクリング中心のコースです。詳細はHPよりご確認ください。

(==> <https://futabacycling.jimdo.com/>)

福島を走って、見て、聞いて、楽しもう!!!



1. 開催日 2017年11月3日(金・祭)～4日(土)
2. 募集定員 25名(内現地参加5名)
3. 参加資格 健康で完走できる方で中学生以上(18歳未満の方は保護者の同意が必要)
4. 持込み可能自転車 スポーツ仕様の自転車(ロード、MTB、ランドナー、クロス、小径車等)  
(タンデム、リカンベント等をご遠慮ください) 不明な点はお問合わせください
5. 参加費 23,000円(旅行費用:18,000円、イベント参加費:5,000円)  
(福島県内現地参加者 14,000円(旅行費用:9,000円、イベント参加費:5,000円))

- ・ 参加費に含まれるもの: 上野駅からの往復乗車券(自転車持ち込み含む)、大会参加料、  
宿泊費(1泊2食)、2日目弁当代、初日温泉入浴料、記念Tシャツ代、保険料など。
- ・ 参加費に含まれないもの: 食事の時のアルコール代など

6. 募集期間: 10月12日(木)まで ※定員になり次第締切り

#### 7. スケジュール (時間は今後の状況で変更になることもあります)

11/3(金・祝) 集合時間: 上野駅近辺(7:00) ※集合場所等は参加者の方に別途ご連絡。  
7:36頃 上野駅発 — 広野駅着 11:39頃

11/4(土) (終了後)

16:00頃 竜田駅発 — 上野駅着 20:40頃

8. コース概要 (コースは予定です。下見の結果や天候、道路状況などにより変更することがあります)

#### (D)リポーンツアー(復興応援スタディ)コース (初級) 宿泊(双葉亭) 定員25名(現地枠5名)

当コースは被災・復興状況の見学等を主体にしたコースです。

見学地ではじっくりお話を伺いながら質疑応答も行います。移動は自転車でサイクリングを楽しみます。

- ・ 当コースは今後見学場所等の関係でコースが変更になる可能性があります。
- ・ 初日は広野町を中心に回ります。新妻有機農園や広野防災緑地、Jヴィレッジなどを見学し、話を伺います。広野町を一望出来る高倉山へは15分ほど歩いて山頂へ上ります。  
(100m程上りますので、滑りやすい靴の方は別途山に登れるシューズを持参ください)
- ・ 2日目は楡葉町の被災・復興状況を見学、話を伺うと共に、昼前には鮭のやな漁場を見学します。  
午後は富岡町での被災・復興への取り組みを見学・話を伺ったり子安橋(21mの津波が到達)を巡りながら竜田駅へ戻ります

初日: (約20km) 広野駅—高倉山(歩き)—新妻有機農園—唱歌 汽車の廃線トンネル—広野・防災緑地—二ツ沼総合公園—Jヴィレッジ(自転車を置いてバスで温泉へ)—宿へ

2日目: (約20km) 宿—Jヴィレッジ—前原集会所跡—まなび館—鮭のやなば漁—第2原発前—下郡山—富岡漁港—子安橋—さくらモール富岡(バス、トラックで)—竜田駅

#### 9.D コース主な立寄り予定地

##### ・広野町新妻有機農園

大震災、津波、原発事故災害後、いち早く町に帰還し、水稻栽培、アヒルソーセージなど、6次化にも取り組んでいる状況を聞きます。

## ・広野町防災緑地

福島県内では、最初に完成した高さ10.7メートルの防災緑地。8.7メートルの防潮堤と合わせ津波被害を軽減する多重防御の役割が期待される。広野町の防災に関する取り組みなどを聞きます。

## ・Jビレッジ

サッカー日本代表の聖地、Jビレッジに立ち寄り、全体を俯瞰することが出来る場所で再開に向けて着々と整備が進んでいるピッチの状況などを眺めつつ、Jビレッジの「これから」を聞きます。

## ・高倉山

麓の広野町などが望める標高121.9mの小高い山。高倉城跡遊歩道の蛇木口に自転車を置き、10分～15分で登頂。展望台にてこれからサイクリングで巡る地域を眺めることが出来ます。

## ・唱歌「汽車」に登場する廃トンネル

「今は山中、今は浜、今は・・・トンネルの闇を通過して広野原」、皆さんが降り立つ JR 広野駅構内で目にする歌碑にも刻まれている。この歌が作られた当時のトンネルは、今は使われておらず、廃トンネルに。このトンネルを歩くことで、「・・・闇を通過して広の原」を実感していただけます。

## ・檜葉町前原地区集会所

檜葉町の沿岸部も津波被害を受けており、残念ながら13名の方々が命を落とされています。現在、檜葉町内で唯一、津波被害を目で見て、知ることができる場所です。

## ・木戸川漁協(鮭の合わせ網漁)

木戸川は事故前、毎年7万～13万匹が遡上。漁協は採卵・ふ化事業で1200万～1500万匹の稚魚を育て、放流していました。東日本大震災の津波被害と原発事故で放流が途絶え、遡上が激減していますが、木戸川漁協は、今年の春から稚魚の放流を再開。木戸川の秋の風物詩、合わせ網漁を見学、話を聞きます。

## ・下郡山(毛萱)地区 ふるさと生産組合

この地は震災直後の2012年より営農再開を目指し、「ふるさと生産組合」が農地含有線量の低減や栽培による再生エネルギーを目的として取り組みました。その当時においては空間線量がまだ高い中、組合員の皆さんはタイベックを着ながらの作業を行いました。2013年度には試験栽培を行い、2014年には実証栽培と続き、その後作付面積を拡大しています。

### ・減容化施設(仮設焼却施設)

町内における可燃ごみの焼却によりその容量を減らしています。処理予定量は、225,000トン程度です。施設規模は500t/日となっています。

### ・子安橋、富岡漁港、富岡駅

このあたりではその土地形状からなのか21mを記録する津波の高さが計測されています。沿岸部では浜街道と防災緑地を作る予定となっています。大きな被害を受けた富岡漁港は来年度の再開に向けて復旧工事中。津波の被害で流された富岡駅は10月21日にJR再開の予定です。(youtubeにて「富岡町 津波」と検索するとこの橋の上部からの映像を確認することができます。)

## 10. 宿泊先

Dコース: 広野町 双葉亭 (URL: <http://www.futabatei.me/>)

福島県双葉郡広野町下北迫字二ツ沼 45-32

TEL:0240-23-6810 FAX:0240-27-3940

(部屋は全てシングルです。また、宿舎内は全室、禁煙とさせていただきます。予め、ご了承下さい。)

## 11. 問合せ先&参加申込み

(1) 詳細情報・問合せ先: 復興支援ふたばサイクリング実行委員会

— 詳細情報はHPをご覧ください HP: <https://futabacycling.jimdo.com/>

— お問い合わせはHPの「お問い合わせ」よりご連絡ください。

(2) 申込み: (株)アールエイチ企画のサイト(<http://rh-kikaku.jp/tour/2017/tour13.html>)にある

申込みフォームから。

**主 催** 復興支援ふたばサイクリング実行委員会

構成団体(檜葉町振興公社、南会津サポートクラブ、広野町振興公社、檜葉町商工会、広野町商工会、一般社団法人ならはみらい、株式会社 日本フットボールヴィレッジ、一般社団法人とみおかプラス)

**後 援** 檜葉町、広野町、富岡町、東日本旅客鉄道株式会社水戸支社、東京サイクリング協会、福島サイクルツーリズム協議会、一般財団法人福島県電源地域復興財団

**協 力** 福島大学 FURE 相双地域支援サテライト、(株)マツダ自転車工場、自転車のまち・あらかわを推進する会(東京都荒川区)

**旅行企画・実施:** 株式会社アールエイチ企画(福島県知事登録旅行業第2-269号)